

## ■災害時等の福祉避難所の開設・運営 市社会福祉協議会と協定締結

市社会福祉協議会（松嶋隆徳会長）と「災害時等における福祉避難所の開設及び運営に関する協定」をこのほど結びました。3月13日に市役所で調印式が行われ、宮澤市長と松嶋会長が協定書に調印しました。宮澤市長は「災害時に一人も見逃さない、災害に強いまちづくりを目指していきたい」と述べ、松嶋会長は「専門知識とチームワークで安心できる避難所になりたい」とあいさつしました。協定では、災害時に一般の避難所での生活が困難な高齢者や障がい者、妊産婦などが優先的に避難する福祉避難所について、市の要請に基づき、市社会福祉協議会が開設・運営を行います。今回の締結により、市内に5カ所ある福祉避難所について、福祉やボランティア運営の知識を持った同協議会の専門職員が対応することができ、災害時に迅速な開設と円滑な運営が期待されます。



協定書に署名する宮澤市長と松嶋会長（右）

## ■市と信州大学 包括的連携協定締結

国立大学法人信州大学（濱田博博学長）と「包括的連携に関する協定」を結びました。3月9日に市役所で調印式が行われ、宮澤市長と濱田学長が協定書に調印しました。今回の協定締結により、市が政策を進める際の課題などについて、同大学の関係する学部が調査・研究を行い、市と大学が相互に研究成果を活用する体制が整いました。同大学とは、旧穂高町時代から人文学部と地域文化の振興・生涯学習・学術研究などを協力し合う連携協定を結んでおり、今回、対象を人文学部に限定せず、全学に広げたものです。あいさつで宮澤市長は「的確に市民ニーズを捉え、複雑化する地域課題の解決や、職員の課題解決力の向上を図りたい」と



全学に広げて協定を締結

期待を寄せ、濱田学長は「地域に根差した大学として、全学あげて連携していきたい」と話しました。今後、生活習慣病予防に向けた学術研究や、ソバやホップといった特産品開発など、健康医療や、産業振興分野で、医学部や農学部などとの連携を予定しています。

## ■農家民宿の輪を広げる シンポジウム開催

都会の子どもたちを農家が受け入れ、農業宿泊体験をする「農家民宿」の活動の輪を広げようと「シンポジウム 農家民宿にたくす夢を安曇野で語ろう」（市・市農家民宿連絡協議会共催）が



基調講演のほか、各地の取り組みなどが紹介された

2月22日、豊科交流学習センター「きぼう」で行われました。当日は市内外から関係者約70人が出席。農家民宿に取り組み南信州観光公社の高橋允さん（まこと）が講演し「地域のひととの触れ合い

やその場所ならではの体験が子どもたちに感動を与える」と活動のヒントを紹介しました。また、市内外の受け入れ農家による意見交換なども行われ、今後の活動の輪を広げました。

## ■安曇野ならではのオンリーワンを全国発信 NPO法人から認定

市はこのほど「ふるさとオンリーワンのまち」の認定を受けました。この認定は、まちの隠れた観光資源を発見し、全国に情報発信している、NPO法人「ふるさとオンリーワンのまち」（東京都）が認定するもので、全国で8番目の登録になりました。3月8日に同法人の津田令子理事長が市役所を訪れ、宮澤市長に認定証を手渡しました。今回、観光地に加え、市の安曇野ブランドの向上や田園産業都市に向けた取り組みなどが評価され認定されました。今後、市だけの「オンリーワン」を発掘し、全国各地・世界各地に情報発信していきます。



津田理事長から宮澤市長に認定証が手渡された

## ■里山再生計画「きとびる。」これまでの成果を発表

市里山再生計画のこれまでの取り組みを発表する「きとびる。フォーラム」を3月11日、市役所で開催しました。当日は、市民など約1000人が参加。講演では県林業総合セ

ンター研究員の清水香代さんが、明科地域の松枯れ被害伐採跡地での樹種転換の追跡調査結果を発表しました。転換後の利用方針については「薪利用など地域で目的を定め、決定してほ



紙芝居で松枯れの仕組みを説明

しい」と呼び掛けました。会場ではプロジェクトの活動紹介のパネル展示のほか、子ども向けに松枯れを学ぶ紙芝居や被害材で作った積み木によるワークショップなども行われました。